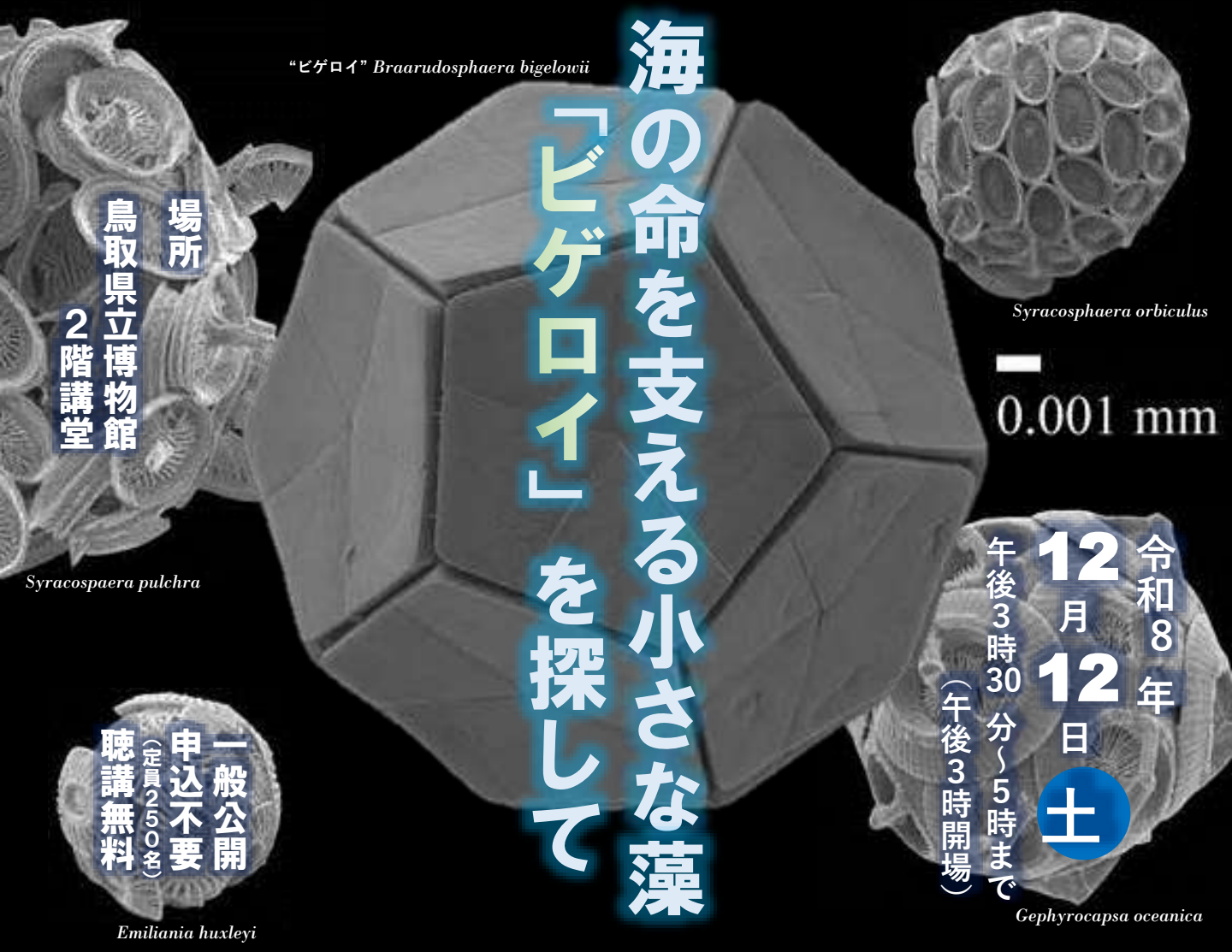
鳥取県立博物館 TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM　鳥取地学会　共催講演会



海の命を支える小さな藻「ビゲロイ」を探して

場所
鳥取県立博物館 2階講堂

令和8年 12月12日 土
午後3時30分～5時まで（午後3時開場）

一般公開
申込不要（定員250名）
聴講無料

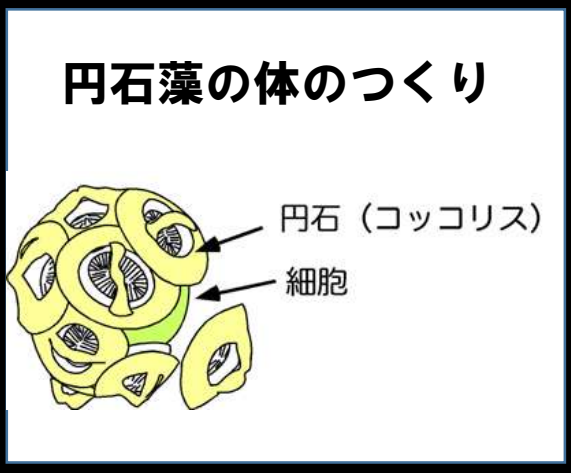


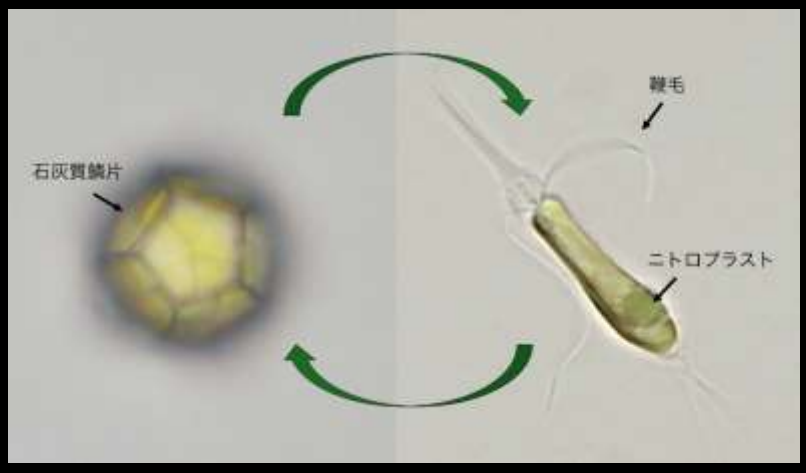
講師　萩野恭子先生
（高知大学国際海洋コア研究所）

萩野先生は円石藻「ビゲロイ」の培養に世界で初めて成功し，萩野先生とアメリカの大学との研究成果は「サイエンス」誌が選ぶ「2024年の科学10大ニュース」に選ばれました．
萩野先生は鳥取県でも調査研究をされています．円石藻とは，「ビゲロイ」とは一体どのような生き物なのか．鳥取の海にどのような円石藻がすんでいるのか．そして，どのような道のりを経て大発見に繋がったかをお話しいただきます．

博士（理学）．ご専門は微古生物学．現在は高知大学 国際海洋コア研究所の特任講師．「円石藻」の化石層序や分子系統学を研究テーマに国内外でご活躍中．岐阜県ご出身．

萩野先生のXアカウント





【ご講演の要旨】

ビゲロイと呼ばれる海の小さな藻が、ニトロプラストという特別な器官を持ち、窒素固定（＝天然の窒素肥料作り）をして海の命を支えていることが最近の研究で明らかになりました。この発見は、ビゲロイの培養に成功して初めて確かめられたのですが、その前には目に見えない小さなビゲロイを海水から探し出すという難題がありました。

私は2008年から2014年まで、鳥取県中部の泊漁港（東伯郡）でビゲロイとその仲間の円石藻の研究をしていました。その時の経験は後のビゲロイの培養実験にとても役立ちました。科学研究は一朝一夕にできるものではなく、その成果の前にはさまざまな研究の積み重ねがあります。海の中から目に見えない小さな生き物をどうやって探し出して培養したのか。本講演では、鳥取の海にいるビゲロイと円石藻の仲間についてご紹介するとともに、そこからニトロプラスト発見に至る道のりについてお話しします。



鳥取県泊漁港でサンプリングをされている様子.
左側が萩野先生，右側はご息女.